



<5>

【右ページ写真】黄色の壁紙で構成された執務室。壁面に並んだキャビネットのオレンジ色がアクセントとなり、活動的な明るい執務空間となっています。【写真1・5】スカイブルーの爽やかな色彩の壁面が印象的な作業空間と会議スペース。この色彩は脳をすっきりとさせ、集中力を高める色彩と考えられています。【写真2】暖色系の色彩でまとめられた、温かみを感じる社長室。椅子のビビットなカラーが、空間に良いアクセントを与えています。【写真3】入ってすぐミントグリーンのアクセント壁が目飛び込んでくるようにデザインされた会議室。脳のスイッチの切り替えが起こり、意見やアイデアが湧いてきやすいような空間を意識した色彩計画となっています。【写真4】正面の壁に用いたストライプ柄のクロスと、手前の壁の縦木目が、見る人に向上心を感じさせるエントランス空間。会社に戻ってくると無意識的にその情報が脳に蓄積され、潜在意識に働きかけます。【写真6】床は面積が広く、色彩情報を落とし込むには効果的です。廊下と会議室の床の色を、緑から赤茶色に切り替えることで、無意識的に脳のスイッチの切り替えができるようデザインされています。



<6>



<1>



<2>



<3>



<4>

Feng-Shui Gallery

special edition vol.55

～風水デザインが空間にもたらす影響を、スペースごとに考える～

『オフィス空間のアクセントカラー vol.3』



オフィス空間の色彩計画は、「動」と「静」を無意識的に感じさせ脳のスイッチの切り替えが起こるようなデザインにすることが大切です。

住居と同じように、オフィス空間内でも場所によって求められる役割は異なります。営業職などは活動的になるような空間。デスクワークに求められることはミスなく集中して作業に取り組めるような空間です。同じ空間にいて、それぞれ求められるものが違うのでアクセントカラーを効果的に使い、空間をデザインする必要があります。